

調査報告

韓国の高等教育機関と生涯教育

—大学での取り組み事例と今後の課題について—

瀧口恵子*, 光永雅子**, 斎藤隆仁***, 大橋 眞***

Organization for higher education and Life-long learning in Korea:
Case studies of approaches in some universities and outlook of key factors in future

Keiko Takiguchi, Masako Mitsunaga, Takahito Saito and Makoto Owhashi

概要:

深刻な少子高齢化社会の問題を抱えている韓国では、生涯教育の充実が極めて重要な社会問題として認識されており、様々な形態の生涯教育の取り組みが行われている。ソウル大学、慶北大学、釜山大学などの主要な大学も、様々な形で生涯教育に携わっており、それぞれ独自のコンセプトを持ちながら、新しい生涯教育の形を模索している。また、韓国放送大学では放送メディアやインターネットを用いて、多様な授業を提供している。さらに大学が特定の地域と関わりながら、地域の活力を引き出す形式の生涯教育の例として、ソウル大学が主催して毎年開催されている国際珍島学会がある。この学会において地域住民が地域に残る伝統の葬礼文化を披露しており、地域文化の継承と発展のために自ら学ぶ生涯学習として機能している。さらにその成果が、地域振興のために活用されている。このように、韓国の高等教育機関が関わりながら生涯教育をより充実させて社会資本としていくための取組を、今後どのように発展させて行くかが今後の課題である。

1. 緒言

少子高齢化社会の問題を抱えている韓国では、日本と同様に生涯教育に力を入れてきている。日本と比較すると、韓国の大学のユニバーサル化や高齢化社会の諸問題などがより急速に進行することが予測されており、その対策を急ぐ必要があると考えられる。韓国における人口の都市への集中は、地方においては過疎化を引き起こし、地域社会の存続が危ぶまれる地域もある。これまで培ってきた地域社会の知恵を次世代に継承していくためにも、生涯教育の充実が必要である。そのために、地域の文化に対する価値を見直し、これまでとは異なった視点から、生涯教育により地域の活性化や地域文化を次世代に継承していくための仕組みを導入することが求められている。このよう

*慶北大学語学教育院, **総合科学教育部, ***徳島大学ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

な、生涯教育に対する新しい視点を導入していくことに対して、大学などの高等教育機関が果たすべき役割は大きい。本稿では、韓国における生涯教育において、大学が関わって成果を出している幾つかの事例を取り上げながら、韓国の生涯教育に関する今後の課題について考察する。

2. 韓国の大学における生涯教育

韓国の主要な大学であるソウル大学、慶北大学、釜山大学では、一般の大学教育に関わっている教員が兼任の形で生涯教育に携わっていることが多く、生涯学習センターである平生教育院の教員として兼任する場合もある。平生教育院の中には、大学の学士課程に準じた体系化プログラムを提供しようとする動きもあり、生涯教育の動機付けに対する新たな取り組みとして注目されている。また、韓国放送大学においては、衛星放送やインターネット配信の授業だけでなく、インターネットを用いた双方向制の授業など授業の目的により多様な形態の授業を提供している。

2. 1 慶北大学の取り組み

2. 1. 1 平生教育院

慶北大学平生教育院は、この大学の生涯教育の実施機関の中心的存在である。この平生教育院における生涯教育の特色として、教養科目、専門科目に分類された正規の学士課程に類する体系的なカリキュラムを用意して、正規の課程とは異なる単位制度のもとに独自の名誉大学課程および名誉大学院課程を設けている。それぞれの修了生は名誉大学課程 1447 名、大学院課程 447 名に達している（表 1）。入学試験は課されておらず、基本的には出席を重視して、単位認定を行っている（表 2）。大学と大学院の位置付けに関して、名誉大学課程、名誉大学院課程についてはそれぞれ 50 歳以上、55 歳以上を資格年齢としている点に特色がある（表 3）。

例

a) 名誉大学

一般教育課程、専門教育課程、芸術課程、特別課程、学点銀行制課程の授業科目から構成されている。

① 一般教育課程の授業科目

英会話、日本語会話、中国語会話、共感される対話技術、利血健康療法、養蜂と健康生活、成功するスピーチとリーダーシップ開発、発表カスピーチ、共感される対話テクニック、イメージメイキング、漢字能力検定試験対策クラス、不動産競売、成功する株式投資、ミニ庭園造り、盆栽、東洋とヨーロッパアン花飾り、天然漢方石鹸とアロマ蠟燭作り、天然漢方化粧品作り

② 専門教育課程の授業科目

書き方と文芸創作、書道指導士、自己主導学習指導士、児童美術指導士、美術心理相談教育指導

士、伝統工芸指導士、音楽心理指導士、コンピュータ実用音楽指導士、イベントとパーティプランナー指導士

③ 芸術課程の授業科目

韓国画、ハーモニカ教室、伽倻琴教室、パンソリと南道民謡、四君子、彩色陶芸器、デジタル写真の上手な撮り方

④ 特別課程の授業科目

風水地理学、コーヒア카데미、病院サービスコーディネーター、四柱命理学、風水地理学

⑤ 学点銀行制^(注1) 課程の授業科目

社会福祉現場実習、保育実習、女性福祉論、社会福祉概論、地域福祉論、老人福祉論、家族福祉論、医療社会事業論、社会問題論、社会福祉法論、社会福祉法制、社会福祉実践技術論、社会福祉政策論、社会福祉調査論、保育課程、児童発達、児童福祉論、児童相談、児童健康教育、遊び指導、家族関係、漢詩論、漢文の理解、実用英語会話、漢文、行政学概論、パソコン活用術、文学概論、批判的思考と論理、中国語、人間関係論

b) 名譽大学院

言語文学（教養漢文、実用漢字、韓国文学の理解）

思想価値（民族史観と価値観、人生教育論、充実した人生の知恵、正しい人生の知恵、四柱命理学、人生と教養、面白い誤解話）

歴史文化（東洋の歴史と文化、西洋の歴史と文化、日本文化の理解、中国文化の理解、フランス文化の理解、韓国古代史、韓国史、韓国史人物探求、韓国の名家）

社会制度（国際関係と人類共同体、韓国と国際関係、韓国社会の争点と課題、韓民族の理解、韓半島の情勢、現代思潮論、現代社会と法、現代社会の理解）

生活教養（音楽世界への招待、音楽の理解、風水地理、シルバー財テクと資産管理、証券と財テク管理）

健康（ダンススポーツ、運動と健康、血液健康療法、疾病予防と健康増進、体型健康管理、褒めと笑いの治療）

2. 1. 2 語学教育院

一般学生や社会人に対して、英語、日本語、中国語などの課外授業を数多く開講している。社会人にとって、平生教育院の一般の授業に比べてより多くの若い世代の学生と共に学ぶ場としての機能も持っている（図1A）。

2. 2 ソウル大学の取り組み

地域における生涯教育

地域において、地域と大学が一体となって開催する生涯教育の例として、文化人類学者チョン・

表 1. 慶北大学平生教育院の在学学生数と修了者数

	在 学 生			2009年度修了者			修了者累計 (設立以降)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
名 誉 大 学	78	94	172	33	32	65	758	689	1447
名誉大学院	149	279	328	14	29	43	224	223	447

表 2. 慶北大学校平生教育院の教育について

教育目標	
慶北大学校平生教育院は、地域社会住民のために国際化・開放化時代に適合した、様々な教育プログラムを通じて時代の要求に合った、専門性を持ち、特性化された教育を実施しています。本教育院は開かれた教育と平生教育の場を通して知識基盤社会を提供し、学習者の教育欲求を充たし、自我実現と地域社会発展に貢献することを目的としています。	
教育の特徴	
市民誰でも所定の手続きを行って入学なされば、水準の高い教授陣が受け持つ大学レベルの教育を受けることができます。	
修了証	民間資格課程の場合、全体授業時間の70%以上出席し、学習達成度評価で一定の点数を得た者には、慶北大学校総長名義の終了証を授与し、それ以外の講座の一部については、修了者に平生教育院長名義の終了証を授与します。
民間資格取得	民間資格課程の修了者は、韓国国公立大学平生教育院協議会が主管する民間資格試験に受験申し込みができ、合格すれば関連民間資格を取得することができます。

ギョンス教授の国際珍島学会の定期的な開催がある。平成 21 年度は、10 月 31 日—11 月 2 日にソウル大学、ソウル女子大学、山口県立大学、徳島大学から合計 40 名の学生が参加して、地域住民と共に珍島の郷土文化センターでシンポジウムが行われた (図 1 B)。また、地域文化を韓国と日本の学生が体験することが行われた²⁾。

2. 3 釜山大学の取り組み

平生教育院

釜山大学では、最近表通りに面した敷地の一角を民間に貸与して、民間資本により 8 階建てのショッピングセンターがつけられた。その最上階に、釜山大学平生教育院が設置されている。このように、ショッピングセンターと生涯教育の設備が同じ建物にあるという形態は、民間のカルチャーセンターを連想させるが、一般の市民にとっては大学の高い敷居を取り払う役割を果たしている。大学の講義室や実習室などと比較して、豪華な設備をそなえた講義室や情報処理室などは、個人の寄付金により設備の充実がなされている (図 1 C)。大学教員が平生教育院の企画運営委員や

表 3. 慶北大学校平生教育院の募集要項概要

課程	名誉学生 ¹⁾	名誉大学院課程			
志望資格	満55歳以上(=1954年生まれまで)	満50歳以上(=1959年生まれまで)			
募集人員	200名	40名			
募集期間	2009.12.21(月)~2010.1.15(金) [09:00~18:00] ※土・日・祝祭日除く				
受講科目	慶北大学校教養科目 -学期当たり 9学点まで	2010年1学期 授業時間割			
		曜日	時 間	教科目	担当教授
		火	10:00-12:00	疾病予防と健康増進	李ギョンウン
			13:00-15:00	現代思潮論	厳ジェホ
		金	13:00-15:00	中国文化の理解	申ジェファン
(+) 慶北大学校 教養科目 (-学期当たり 1科目まで)					
受講料 ²⁾	10万ウォン	25万ウォン			

- 1) 名誉学生と名誉大学院課程は、学歴ではなくて年齢で分けられている。
- 2) 受講料は、名誉学生は9学点（一般的に1科目3学点）で10万ウォン、名誉大学院は学点制がなく、3科目25万ウォンとなっているが、学期当たり1科目まで教養科目が自由選択で履修できる。これを申し込んでも申し込まなくても受講料は25万ウォンである。この教養科目の1科目サービスは、名誉学生課程の学生達とも交流が持てるようにと、一緒に履修できる科目を提供している。

講師として兼任しているが大学以外の講師も多いという点が、この平生教育院の特色である。必ずしもアカデミックな内容とは限らないが、多様な受講生の興味に合わせて多彩な講義が用意されている。

2. 4 韓国放送大学の取り組み

放送大学TV、双方性遠隔教育講義、LOD (Learning On Demand) システム、インターネット講義等、多様な先端教育媒体を通して授業が行われている (図1D)。

2. 4. 1 学士課程

韓国は、世界で最も高学歴な国の一つであり、大学進学率が8割を超える。このような高学歴社会を広範囲に支えているのが、充実した先端教育媒体を駆使して高等教育に貢献している韓国放送大学の学士課程である。

学士課程の内容を以下に示す。

人文科学大学 (国語国文学科, 英語英文学科, 中語中文学科, 仏語仏文学科, 日本学科)

社会科学大学（法学科, 行政学科, 経済学科, 経営学科, 貿易学科, メディア映像学科, 観光学科）
自然科学大学（農学科, 家政科, コンピュータ化学科, 情報統計学科, 環境保険学科, 看護学学科）
教育科学大学（教育学科, 青少年教育科, 幼児教育科, 文化教養学科）

2. 4. 2 大学院課程

韓国放送通信大学は、サイバー教育で修士学位が取得できる国立サイバー平生大学院として、国内で初めて開校した。現在、授業はインターネットの遠隔教育だけで行われている。1学期に1回は出席授業があり、先生によってはゼミを行っているのでその都度出席を求めている。また、原則として中間・期末はレポート提出が課されている。平生教育学科のように、生涯教育に関する課程を設置していることに特色がある。生涯教育に関するシステム論を中心に生涯教育の専門家を育成することも視野に入れている。

大学院課程の内容を以下に示す。

専攻学科（行政学科, 経営学科, 情報化学科, 平生教育学科, 家政学科, 幼児教育学科, 実用英語学科, eラーニング学科, 看護学科）

3. 考察

3. 1 韓国の大学と生涯学習

韓国における生涯学習の特色として、大学などの高等教育機関が関係する取組が、極めて高いレベルのモチベーションを学習者に対して提供している点が挙げられる。韓国では有名大学へ入学することに関して、ある意味では日本よりも競争主義的な風土がある。その一方では、出生率の低下に伴い、高齢化が急速に進行している。このような状況の中で、地域の中での中核的な役割を果たしている大学は、地域の人にとって勉学のシンボルとして精神的な支えの役割を持っている。また、このような大学は図書館などの施設も充実しており、学生が自主的に勉学をする場として有効に活用されている。また、このような主要な大学のキャンパスは一般的な日本の国立大学よりも広く、建物のような機能面だけではなく、学問の府としての大学の景観が整備されている。このような大学が、生涯学習の場としても様々なプログラムのもとに機能していることは、大学本来の機能を高めている要因ともなっている。

韓国の有名大学における体系化された生涯教育は、生涯学習者にとってハードルが高くなる面がある一方で、生涯教育の新しい形のモチベーションを与える役割を果たしている。放送大学を中心としてインターネットを用いた放送授業は普及が進んでおり、大学においても自習室でインターネット配信の授業を受けている学生が多い。このような授業では、地域社会人も自宅等で同じ授業を受けることも一般化している。しかし、地域社会人が一般学生と直接接することはあまり無いようである。また、学生が同じ授業を履修している他の受講生と、お互いに顔をあわせることによりコミュニケーションを取る機会は少ないと思われる。



図1 韓国的高等教育機関における生涯教育の取組

- A. 慶北大学語学教育院 日本語会話Discussion Class, B. ソウル大学 国際珍島学会,
C. 釜山大学 平生教育院情報処理実習室, D. 韓国放送大学スタジオ

3. 2 大学の設定する生涯学習に対するモチベーション高揚のための仕組み

慶北大学において、生涯教育の中心になっているのは、平生教育院と語学教育院であるが、平生教育院においては、名誉学士という称号を与える仕組みを導入することで、生涯学習の学習課程を体系化することにより、多くの授業で顔を合わせる学友が増える。このために、共に学ぶ仲間との交流の機会や自らのアイデンティティを持たせることが出来るために、継続的なモチベーションとして働く仕組みを導入している。また、大学の学士課程と類似のシステムを大学の組織が設定することにより、擬似的な大学の学士課程を受講生の意識の中に構築することが可能となった。この名誉学士の称号を目指すことも生涯学習のモチベーションとして有効に機能すると考えられる。また、名誉学士の称号を取得した後は、名誉大学院の過程に進学する道がある。名誉大学院での授業は、学生達の側で授業内容に関する企画を立てて、その授業内容にふさわしい講師を自らの努力で探し出して講師の就任を依頼する仕組みを導入している。授業の中には、北朝鮮の政治に関わるような内容のもの（韓半島の情勢）もあり、受講生の人気を集めている。国民的関心は極めて深い問題でありながら、学習教材は限られているために、学生の授業に対する関心度は極めて高い。慶

北大学平生教育院のこのような仕組みは、生涯教育の中にも教育の体系を図りながら、生涯教育のあり方の一つのモデルを提起しており、正規の学士課程との繋がりが今後検討される可能性もあると思われる。生涯教育を模擬的な大学と称する試みは日本でも数多く存在するが、慶北大学の取組のように、大学が直接かかわる生涯教育にこのような制度を導入することにより大学教育との連携が進むと、お互いの相乗効果が期待される。

慶北大学平生教育院は、カリキュラムの体系化により正規の学士課程に似た形になっているのに対して、釜山大学平生教育院は、一定の要件を満たした受講生に対して学士課程の卒業式に類するセレモニーを取り入れる試みが行われている。慶北大学のような教育体系を正規の大学学士課程に類する形に整備することにより、受講生にとって経済的や時間的な負担増があるなどの問題があり、一般の地域社会人にとって大学の敷居を高める懸念がある。これに対して釜山大学の取組は、地域社会との融合を図っていく方向性を持っている取組であると思われる。設備的な面からも地域社会との一体化を試みており、大学所有の敷地内に民間資本によるショッピングセンターを建設し、その最上階に平生教育院を設置している。これは、民間商業施設との設備の配置と、大学の敷居を低くしてより多くの地域社会人にとって身近な存在になるような工夫であることが出来よう。さらに、釜山大学平生教育院の設備は、通常の大学が運営する他の生涯教育施設と比較して、様々な面において充実している。これは資産家個人の寄付により、講義室や情報処理実習室の機器の整備をおこなったためであり、ゆったりとした環境で生涯学習に取り組むことが出来るように配慮がなされている。さらに、釜山大学は、地域の美術館に様々な教育プログラムを提供して、地域の人材を活用した小学生の教育にも取り組んでいる³⁾。

3. 3 地域の文化と生涯学習

地域文化の継承は、その地域の人にとってのアイデンティティの形成にとって重要な役割を果たす。このような地域文化を学ぶ場として、博物館や図書館も大きな機能を果たしていると考えられる。韓国においても、生涯学習の場としての機能を持たせるように博物館、美術館や図書館の整備が進められている。主要な大学においては、博物館が大学のキャンパス内に設置されており、充実した図書館と共に生涯学習のために活用されている。慶北大学は、新羅の都が置かれていた慶州に地理的に近いために、地域で発掘された数多くの出土品が大学校内の博物館に展示されており、大学生の課外学習の場としてだけではなく地域社会や大学そのもののシンボルとしての役割を果たしている。このように、地域文化の継承に大学が関わることで、生涯学習の場としての機能も同時に果たす素地が出来ることになる。このような場を利用して学生が課外活動として学ぶことは、地域文化を学ぶ生涯学習としての経験を持たせることに貢献していると思われる。

また、大学のキャンパスから遠く離れた地域においても、地域文化を継承する形での生涯学習がある。一例としての珍島の地域住民による葬礼文化の継承に関わる生涯学習は、ソウル大学の研究と教育の場として活用されることになった過程と密接に関連しながら発展を遂げてきた。珍島は、

高麗の時代に歴史的な表舞台に立ったこともあったために、城壁跡などの文化遺産が数多く残されている。また、その後は流刑の島としての役割を持ってきた歴史があり、この地域に特有の伝統文化が残されている。このように、珍島は韓国の中でも特色のある伝統文化の継承で活躍している地域社会人が、地域文化の継承に関わる生涯学習を自らの手で行う体制が構築されている²⁾。

3. 4 大学生の課外学習と生涯学習の一体化

大学の設置する平生教育院などにおいて、学生が課外学習として特定の科目を履修することは、日本の大学における公開講座などにおいて学生が参加することと類似している。生涯学習を主な目的として設置された講座に、学生が課外学習として参加することは、学生にとってその講座における講師の講演が主な目標であり、共に学ぶ生涯学習者の存在はあくまで従の役割にすぎないという面がある。

慶北大学語学教育院においては、正規の授業とは異なる外国語会話の授業が多数開講されている。これらの授業は一般の社会人の受講も受け入れており、大学教育の課外学習と生涯学習が一体化した形態で授業が行われている。対話形式を重視した授業では、社会人の経験と幅広い知識が、教員との対話において提供された話題をより深く掘り下げて、同じ授業の大学生に対して新たな論点を提供する役割を果たしている。この様な役割を果たす生涯学習者の存在は、他の受講生に対して、当座の論点の背景に存在する歴史的な視点の重要性を認識させると共に、異なった視点を持った受講生が同一の授業を受けながら議論することの意味について体験を通じて感じさせる役割を果たしていると考えられる。また、社会人にとっては、学生と共に輪を囲んで学ぶことにより、自らの経験と知識を授業の進行という重要な場面で実際に役立てるとともに、次世代に自らの文化を引き継ぐ役割を担うことに繋がる。生涯学習者が、このような形で学習に対する高いモチベーションを持つことは、学生に対して勉学の意義を考える機会を与え、大学教育向上の役割を担っていくことが期待される。

上述の通り、慶北大学語学教育院における生涯学習は、学生と生涯学習者が共に学ぶことにより相乗効果を与えている。学生にとって正規の課程としてではなく、課外学習として外国語を履修する場合、その外国語の習得が就職や留学等において絶対的な必要条件になることが高いモチベーションの背景として存在する。その一方で、課外学習の場において生涯学習者と共に学ぶことにより、課外学習で自ら学ぶことに対する意義を学ぶ場としての役割も合わせ持つ。生涯学習者は、このように学生と机を囲みながら共に学ぶことにより、お互いに刺激し合いながら学習効果を高めている。さらに学生と社会人共に、異なった視点を持った学習者が共に学ぶことの意義について、このような授業を通じて自らその効果が体験出来るために、相互学習に対する理解が深まるという意義を持っている。日本では大学の卒業の必要要件となっている外国語であるが、韓国では課外学習として生涯学習者と共に受講する外国語教育も多く、大学において生涯学習の意義を考える機会に恵まれていると言えよう。

3. 5 地域と共に学ぶ取組と生涯学習の一体化

生涯学習は、地域の中で自ら学ぶことの意義がその地域の構成員の間で共有され、その体制の構築が自らの手でなされることが、持続性という観点からも優れた取組であると考えられる。一般的に地域の生涯教育の取組において、住民自らの手により自発的な取組へと発展させることは、通常多くの困難な問題を抱えており、ニーズに合わせたプログラム開発や、ヒューマンネットワークの整備などが共通する課題となっている⁴⁾⁵⁾。この様な共通する課題に対して大学が関与することにより、地域の住民の手だけでは困難な取組意識の止揚効果を果たしている例が存在する。大学を定年等で退職した教員が、地域の生涯学習サークル等の発起人の役割や実質的に運営に関わるなどの取組があり、大学教育のシステムを生涯学習に融合させる試みとして注目される。これに類似した生涯学習に対する動機付けの例として徳島大学では、地域社会人が参加する授業を開設している。学生が社会人と共に学ぶことにより、生涯学習の意義を理解する場として有効に機能を果たしている⁶⁾⁷⁾。

また、大学教員の研究テーマと地域の住民の生涯学習が結びついて、双方にとってかけがえのない存在になっている例もある。例えば、ソウル大学の人類学チョン・ギョンス教授の取組である国際珍島学会の定期的な開催と、それに伴った形での住民の生涯学習が挙げられる。この国際珍島学会は、大学教員などの研究者、大学の学生、自治体職員など外部からの参加者だけではなく、地域の住民も多数参加して議論に加わるなど、学会の構成員としての役割を果たしている。また、地域住民が高いモチベーションを持ち続ける仕組みとして、この学会に関係する地域文化を披露することや、学会会場の準備等で主体的に関わっていることが挙げられる。

3. 6 生涯学習のシステム構築と大学のかかわり

韓国放送大学の特色として、大学院に生涯教育の専攻を設置していることが挙げられる。通常の放送授業だけではなく、インターネットを用いた双方向性の授業なども開設しており、受講生が主体的に授業に関わるような授業となっている。最近では日本でも通信教育が中心の大学では、インターネットを用いた同様のシステムを使用して授業をおこなっている。また、韓国の放送大学における生涯学習専攻において、地域の生涯学習のシステムを構築することに関することは、この専攻の中で重要な学習項目のひとつである。この点に関しては、行政などの主導によりシステム構築を行い、その後もシステムの基本部分に関与を続けるということを基本としたシステム構築を目指している。この過程で、住民の要望を聞きながら学習センターなどの機関を設置して、要望の多い講座の開講をして、多くの受講生を集めて、受講終了後の受講生の満足度が高いという結果をめざすことが、一つの目標となっている。また、このようなメディアを使った生涯学習のシステムでは、学習者の自己管理能力が学習を続けていく上で重要な要素となる。時間管理能力は、自己管理能力のなかでも最も重要な要素の一つであるが、統計的には所得の高い層や読書経験のある人が時間管理能力が高いとする研究がある⁸⁾。

3. 7 生涯学習のモチベーション

珍島の生涯学習のシステム構築の特色として、生涯学習の環境整備を大学などの高等教育機関や行政がおこなったのではなく、地域の人達が自らの継承してきた伝統文化を発展させる過程で、自らの伝統文化を学び直す自己学習が、その発展の引き金となったという点が挙げられる。自らが学習素材の提供者であると共に自ら学習者になっている点が、継続的な自己学習を可能としている要因の一つと思われる。さらに珍島の文化の特色として、葬礼文化という普段の生活の中で地域住民の共同の営みとして、すでに馴染みのある体験であるという点がある。このような、住民としての共通体験を、大学の教員と学生が単に一つの地域の文化というだけではなく、国の文化としての価値を置きながら、地域住民と共にそれを学ぶ姿勢を保ち続けているということが、この取組の特色として挙げられる。一般的に葬礼ということに対してタブー視する傾向のある日本とは若干異なり、葬礼自体は地域の祭りとして機能しており、住民がこの行事に参加することは、義務であると同時に、その行事を共同で執り行うこと自体が、そこに共同体の一員として生きることの証になっている。地域住民は、このような祭りとしての意味を披露することに誇りを持っており、その文化が住民の手により、発展してきた。このような背景の元に、葬礼文化の価値が公に裏付けられたことを契機として、観光の目玉としての地位を築くようになった。このような地域文化に対する生涯学習社会が出来た要因として、葬礼文化という保守的な宗教行事が韓国の一地域において保存されてきたという背景に加えて、大学の研究としてその文化を研究して、その価値を学問的に裏付けた後に、その地の文化に関連する文化に関する研究成果を地域住民と共に考える場を設けてきたことがあげられる。このように関係者の努力により、結果として自らの文化に関する学習へのモチベーションが、高まってきたと言えよう。この例において、大学は研究対象としての地域文化を住民と共に共有する過程に於いて、地域文化としての価値観を共有し、次第にその文化的発展と継承という仕組みに関わる生涯学習のシステムを構築することに貢献したと考えられる。

3. 8 学生が地域文化の継承に関わる意義

珍島においては、地域文化の継承という地域住民の生涯学習の成果を発揮する場としての観光産業が創出された。その結果として、さらに関連した観光産業が生み出され地域に新しい雇用を創出し、過疎の村の活性化に貢献することになった。このような状況の中でも、少子化の流れが変わり、地域の活性化に比例して急速に人口増になった訳ではない。地域の文化を継承する体制を構築することは、このような生涯学習のシステム構築において重要な意味を持っている。今回の取組においては、生涯学習を自らの手で行う体制をつくることに対して、大学は後方支援的な役割を果たしてきており、年に一度開催される珍島学会においては、関係する研究を行っている大学教員だけではなく、学生も参加して共に地域文化を学ぶ場としての機能を果たしている。学生が地域の文化に関わることにより、地域の社会人が地域の文化を継承し、発展させることの意義を認識させることに貢献している。また、次世代の育成が困難な地域社会において、自らの文化に興味をもつ学生の育

成に貢献できることは、自らの文化に対する学びを深めるためのモチベーションとして機能していると考えられる。このように、学生の側が地域に出かけていき、その地域の文化を地域社会人と共に体験する試みは、後継者の不足による地域文化継承の危機を乗り越えるための方策のひとつとしても注目される。

3. 9 地域社会人の生涯学習

珍島の地域社会人にとって、これまでの地域社会で守ってきた伝統文化が韓国国内だけではなく海外からも価値の高いものとして、認識されるようになった。そのために、これまで先祖代々守ってきた地域の伝統文化の意義を明らかにするために、韓国の歴史的背景の中での珍島文化の位置づけを模索するようになった。その中から、伝統文化をさらに発展させた創作作品が生まれ、観光を呼び寄せるアイテムに成長した。また、韓国の他の地域文化と比較により、他者の視点から自らの文化を見直す事が可能となり、その価値に対しての客観的な基準という指標を持ち得たことが、住民自身に高いモチベーションを持たせ、地域文化の持続的発展を可能にさせた面がある。さらにこのような自らの文化の創造的発展を可能としているのは、伝統文化の継承者というアイデンティティの確立である。韓国の他の地域と比較して、先祖代々守ってきた伝統文化がよく保存されていることが、自分たちの先祖の功績を自ら認識し、文化の継承者の流れの中に自らの存在を位置付けることにより、自らのアイデンティティを常に再認識させるために、持続的な発展を可能と思われる。自らのアイデンティティの確立のために、自分の文化を知ることの重要性に気づくためには、まず他の文化に興味を持つことがその第一歩であり、この珍島の地域社会人と接することは、お互いの地域文化の重要性を悟る存在になっている点も重要である。また一方では、すでに伝統文化の形が失われつつも、何らかの形で類似の伝統文化を持っている地域の人達にとっては、珍島の伝統文化を知ることにより、消えていた自らの伝統文化の繋がりを再認識する可能性がある。このような自らの文化と他の文化との繋がりを認識することにより、自らの伝統文化を次世代への継承することの意義を再認識させる効果も期待出来る。

4. おわりに

韓国の急激な少子高齢化社会の進行に対して、生涯教育をどのように発展させていくかは、この国の抱える将来の懸念を払拭して理想社会の実現への希望に変える要になり得る課題であると言える。さらにこの問題は、日本の今後の生涯教育や大学教育の改革を考える上でも重要な示唆をするものと思われる。今回紹介した韓国の主要な大学における生涯教育の取組は、それぞれ特色を持っており、めざす方向性も必ずしも同一とは見えない。しかしながら、生涯学習は幅広い知識層の地域社会人を対象としており、学習者の目的も多様である。そのために、多様な形態の生涯学習の機会を提供しながらも、全体として統一的なある目標が設定できれば、学習者にとっても生涯学習の意義に対する理解を容易にすることに繋がるとと思われる。

今後、両国の協力関係を深めながら共同研究を推し進めていくことにより、さらに優れた取組を創出することが望まれる。その結果として生涯教育における国際交流のプログラムが開発されることにより、生涯学習に対する新たなモチベーションとなることが期待される。また、生涯教育と大学教育との連携を様々な形で進めていくことにより、生涯教育と大学教育の融合を模索しながら、大学教育の体系を見直していく必要がある。

注 1

学点（単位）銀行制¹⁾

学点銀行制は、韓国の学点認定等に関する法律に基づいて、学校だけではなく学校外で行われる様々な形での学習や資格や学点（単位）として認め、学点の累計で一定の基準を満たすと学位が取得出来る制度であり、開かれた教育社会と生涯教育を目指している。

参考文献

1. キム・ジェチュン, キム・ジェヒョン, ジョン・ソナ (2007) 「学点銀行制標準教育課程の再構造化方向探索」, 教育家庭研究 25 : 133 - 153.
2. 大橋 眞, 光永雅子, 中恵真理子, 斎藤隆仁 (2010) 「地域社会に学ぶ体験型学習～第7回国際珍島学会と韓国の地域から学ぶことの意義～」, 大学教育研究ジャーナル7 : 98 - 102
3. 大橋 眞, 光永雅子, 中恵真理子, Steve T. FUKUDA, 斎藤隆仁 (2010) 「高等教育と生涯教育を考えるInternational Conference -地域社会人を活用した教養教育の一環としての日韓中交流-」, 大学教育研究ジャーナル7 : 98 - 102
4. ジャン・ウンスク (2008) 「地域社会平生教育機関の問題点および活性化課題-大田(テジョン) 儒城區(ユソング)を中心に-」, 教育研究論輯 29 - 1 : 119 - 139
5. ソン・スンナム (2009) 「平生学習都市推進現況と地域学習共同体活性化方案-全南(チョンナム) 地域の平生学習都市を中心に-」, 教育の理論と実践 14 - 1 : 59 - 83
6. 大橋 眞, 中恵真理子, 光永雅子, Steve T. FUKUDA, 斎藤隆仁, 菊池 淳, 香川順子, 廣渡修一 (2009) 「大学教育改革と教養教育-地域社会人活用による知の循環型社会構築に向けて」, 大学教育研究ジャーナル6 : 88 - 97
7. 光永雅子, 中恵真理子, Steve T. Fukuda, 斎藤隆仁, 金成香奈子, 的場一将, 大橋 眞 (2009) 「学生・職員・教員参加型の教養教育FD活動-UD (University Development) 活動としての意義」, 大学教育研究ジャーナル6 : 98 - 102
8. ユン・ヨンオク, キム・ウェスク (2007) 「大学生の時間管理: 関連変数および生活満足度との関係」, 韓国家庭管理学会誌 25 : 71 - 82

Abstract

Korea has severer problems facing an aging society with a falling birthrate. Under this situation, development of life-long learning is considered to be an important social problems and many programs for life-long learning are run in various styles. Major universities such as Seoul National University, Kyungpook National University and Pusan National University have own original programs with specific concepts for life-long learning. On the other hand, Korea national open university provides many kinds of lectures over broadcast and internet. Furthermore, Seoul National University has a annual program with international conference in Jindo where many members of the local community participate with high motivation for life-long learning. Members of the local community make many efforts for developing the skill for traditional funeral ceremony cultures by their own effort as life-long learning and transferring to the next generation, and the increase of number of tourists result in regional development. Thus, how to develop the system for life-long learning and utilize for development of social capital is the key factor by organization of higher education in Korea.